

本書に寄せて

筆者の武内さんとは古い知り合いで、かれこれ10年ぐらい同じ職場にいたと思います。

彼は昔から人に教えるのがうまく、大企業でソフトウェア系の新人全員にOSの動作原理を教育するという仕事を、毎年本業と並行して器用にこなしていました。その教育は新人の理解度・満足度が他の講義とくらべて驚異的に高かったため、社内で評判になっていました。また、IPAのセキュリティキャンプなどにおいて、学生に対してもOSについての教育によって高い評価を得ています。

わたしも経験があるのですが、OSを教えるのは難しいです。そもそもハードウェアの動作から教えないといけないため、1つ1つの説明がどうしても長くなりがちです。さらに、きちんと理解するには最小限のプログラミングの知識も必要なので、初学者にとっては途中で挫折する要素が満載なのです。

武内さんの教育はたいへんユニークで、常に豊富な図表、および説明を裏付ける実験データを示すことによって具体的、かつ、簡潔にものごとを説明します。たとえば、性能を意識したプログラムを書く際に必須なキャッシュメモリについて説明する際は、動作原理を図示するとともに、メモリとキャッシュメモリの具体的な速度差を示すグラフを用いる、などです。これによって、新人が作り込むプログラムの品質改善に大いに貢献していたものです。

その武内さんが、上記のような豊富な教育経験をもとに、OSの動作原理についての知見を一冊の本にまとめてくれるということで、私はいま、とてもわくわくしています。タイトル通りLinuxのしくみについて知りたい人はもちろん、OSを自作してみたい人にも、自分のプログラムの性能チューニングをしたい人にも、本書はきっと役に立つでしょう。

2018年1月30日

Linuxカーネルハッカー、Rubyコミッター

小崎 資広